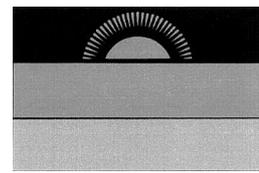


Kwacha(クワチャ)はチェワ語で「夜明け」を意味します。

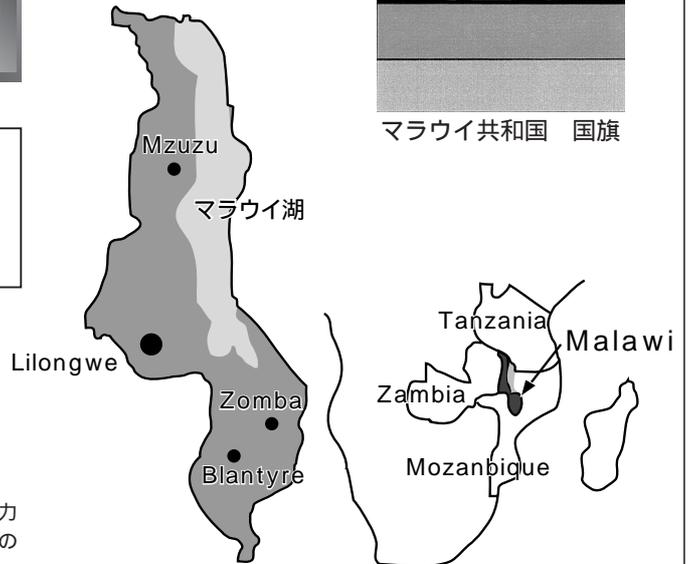


マラウイ共和国 国旗

編集・発行：日本マラウイ協会  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付  
Tel. 03-3447-2921 Fax. 03-5798-4269  
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>  
E-mail [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)  
人口：1131 万人 (2000 年推計) 首都：リロングウェ  
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ  
為替レート：MK 78.948 (9 月 1 日現在)  
MK 1 = 1.58096 円 (9 月 1 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】  
日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。  
会員数：263 人 (9 月 1 日現在)



## 第 1 次マラウイ食糧支援募金の報告

5 月 12 日(日)の日本マラウイ協会第 20 回通常総会(第 2 面記事参照)でマラウイの食糧不足問題がとりあげられ、まずは関連情報を収集することになりました。

6 月 19 日(水)の定例会に関連情報が持ち寄られ、情報収集・発信と支援活動を始めることとなり、7 月 6 日(土)の国情セミナー・シマを食べる会(第 2 ~ 3 面記事参照)を出発点といたしました。

現在のマラウイの食糧不足に関する問題としては以下の点などが指摘されています。

- 食糧生産・流通システムの不備
- エイズの蔓延による生産力の低下
- 統治・行政機能の不全
- 経済・財政運営の不備

こうした指摘のとおり、マラウイの食糧不足の原因は複雑であり、単に食糧を援助するだけでは根本的な解決にはなりません。そのことは緊急食糧支援の必要性を否定するものではないと私たちは考えます。また現在の日マ協会の機動力の限界やマラウイ側の状況を考え、国際連合世界食糧計画(WFP)のマラウイに対する食糧支援に協力することにしました。

7 月 6 日(土)のマラウイ独立記念日の国情セミナー・シマを食べる会に、それまでの検討に基づいて左の呼びかけを行いました。また、国情セミナーではマラウイ大使と大使館員から食糧不足問題が強調されました。その結果、当日、参加いただいた皆さんから合計 239,700 円の募金が寄せられました。

7 月 6 日以降、いろいろなメーリングリストなどに募金の呼びかけを発信し、7 月 17 日(水)の定例会では第 1 次募金の締め切りを一応 8 月 15 日(木)とすることに決めました。

8 月 21 日(水)の定例会でそれまでに寄せられた募金を集計した結果は 642,000 円となりました。以下は募金とともに寄せられたメッセージです。

ございました。わずかですが、募金させていただきます。貧者の一灯ですがお役にしてください。現在無収入学生の身、多くはできませんが大海の一滴になれたら嬉しいです。WFP のニュースをよみ、一層その深刻さを実感しました。マラウイの子供達の為につかって下さい。埼玉・OB 会メールで見ました。少額ですが。マラウイ食糧支援のための募金のメールをいただき拝見しました。たしかに、去年マラウイを訪れた時、皆ライスばかり食べていたので不思議に思い聞いてみると、「トウモロコシの出来が悪く、シマがたべられないんだ。」と話してくれたことを思い出しました。しかし、現状はかなりひどいものだったんですね。私にとって大切なマラウイです。もし、お手伝いできることがあるのであればということで、募金をさせていただきます。これは去年のマラウイ訪問で残ったお金です。米ドルで申し訳ありませんが、どうぞ受け取ってください。マラウイと皆様に恵みと祝福がありますように。

8 月 27 日(火)に WFP 日本事務所にマラウイへの指定寄付(マラウイ緊急食糧援助)として 642,000 円を振り込みました。以下がその領収書です(別途、礼状も頂きました)。



WFP 日本事務所からの領収書

今後ともマラウイの状況を注視しながら、当面は 10 月 31 日(木)を期限として第 2 次募金を行っています。送金先などは前記の通りですので、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

### マラウイへの食糧支援のための募金のお願い

マラウイでは、昨年未から、食糧不足が深刻になっています。2 月末には政府は国家災害事態を宣言しました。昨年 12 月から今年 3 月の間に 500 人以上が餓死したと政府は報道しています。今の時期から来年 3 月にかけての穀物育成期には食糧不足はさらに悪化し、300 万人以上が食糧支援を必要とすると予測されています。必要量を満たすためには 48 万 5,000 トンの穀物を国外から必要としており、そのうち 20 万トン以上を援助に頼らなければならないと考えられています。

日本マラウイ協会では、今こそマラウイの友人達をすこしでも支援するために、食糧支援のための募金をお願いしています。現時点では国際連合世界食糧計画(WFP)のマラウイに対する食糧支援に協力することにしています。

日マ協会宛に郵便振替にて募金される場合は、郵便局備え付けの一般の郵便振替用紙を使用してください。振込み手数料が必要となります。

口座番号 00190-7-13125

加入者 日本マラウイ協会

通信欄に「マラウイ食糧支援」と書いてください。

日マ協会の活動については、インターネット、機関紙などで報告しますので、情報を希望される方は、日マ協会への募金の際に、メールアドレスの記入をお願いします。

他の募金の方法として、WFP 日本事務所へ振り込むこともできます。募金の対象国をマラウイに特定することなどの詳細については電話 045-221-2510、ファクス 045-221-2511 でお確かめください。

募金の趣旨をご理解の上、よろしくご協力お願い申し上げます。

2002 年 7 月 6 日  
日本マラウイ協会

少しでも協力させて下さい。  
マラウイ隊員時代は、陸上、剣道にとサポートありがとうございました

## 第 20 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 20 回通常総会が 5 月 12 日 (日) 15:00 から、東京・広尾の青年海外協力隊 (JOCV) 広尾訓練研修センター大会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 13 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動文化活動国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、国際協力フェスティバル参加、国情セミナー / シマを食べる会 (懇親会) 開催、第 2 回ウォームハートプロジェクト (WHP) = 在マラウイ JOCV 隊員支援活動 = など平成 13 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。特に、WHP では、実際に現地でご活躍いただき帰国間もない小野田 公氏 (H11-3 からプロジェクトに対する報告説明があり、日頃の定例会出席者からは小野田氏に対して労いの言葉や質問、今回の案件採用に関して経緯説明等があった。

第 2 号議案の平成 14 年度事業計画と予算案では、基本的に前年度と同様に広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくが、審議の結果、以下を特記事項とすることになった。

当会設立 20 周年記念事業を行うこととし、詳細については定例会で検討する。

国際協力活動の一環として、マラウイの食糧不足を会員やマラウイからの帰国隊員、一般へ周知する方策を検討するとともに、可能な支援策について検討する。

第 3 回の WHP 申請の受付締切日は 6 月 30 日を予定する。

会員数に対する会費収納率の向上に努める。

第 1・2 号議案は満場一致で承認された。

なお、総会には前述の小野田氏をはじめ、やはり帰国間もない富田 淳也氏 (H11-1)、新会員の江上三喜子氏 (H9-2) の出席があり、マラウイの食糧不足に関する情報交換などが行われ有意義な会となった。

## 新駐日マラウイ大使歓迎会

日本マラウイ協会では 3 月 20 日 (水) 19 時から、東京・渋谷の青年海外協力隊広尾訓練研修センターで新駐日マラウイ大使 Mr. James John Chikago の歓迎会を行った。

新大使は 1 月 10 日に来日し、3 月 11 日に天皇陛下へ信任状を奉呈され、同日、日本外務省賓客のパテル外務・国際協力大臣の来日に随行するなど忙しい日々を送られていたところ、今回の歓迎会に至ったものである。

大使館側からは新大使ご夫妻をはじめ、参事官、一等書記官、秘書を含め 6 名、一方、マラウイ協会側からは数原会長夫妻以下、合計 16 名が出席した。

会は、英語と草苺康子 OG (H9-3) のチェワ語による開会の言葉でチカゴ大使ご夫妻を驚かせることから始まった。数原会長の歓迎の言葉の後、チカゴ大使は、

96 - 7 年頃、ムランジェのティー・エステートでマネジャーをしていた時、近くに薬剤師の日本人協力隊員がたった 1 人でいた。地方への展開も積極的に行ってくれる日本の協力隊を大変評価している。

天皇陛下への信任状奉呈の際にも、マラウイでの協力隊員の活動はよく承知しており大変感謝していることをお伝えし、陛下もマラウイの協力隊にはことのほか関心を示された。

日本へ赴任の目的の 1 つには、マラウイへの投資

を促進してもらうことにある。協力隊 OB/OG の皆さんにも何かとお手伝いいただければありがたい。

日本人は平和を愛する国民ということが、これまでの日本とマラウイの交流でよくわかった。よってマラウイ政府は、2 月 28 日をもってマラウイへ旅行する日本国民に対し、入国ビザを不要とする決定をした。

などと述べられた。



大使着任を祝い乾杯

この後、当会の山村理事の乾杯の音頭で歓迎の宴に入った。それぞれ在任時代が異なる日本側出席者は次々と大使と囲み、懇親を深めた。

また、大使夫人は当会作成のマラウイ旅行ガイドブックに載っているマラウイ国歌の楽譜に興味を示され、出席の OB/OG、数原会長らと一緒に同国歌を歌われるなど和やかな雰囲気では進んだ。

マラウイ協会では、今後も大使館主催の行事や当会主催の行事で互いに協力していく予定である。



大使を囲んで

## 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では 7 月 6 日 (土)、マラウイ独立 38 周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後 2 時から、駐日マラウイ国大使 Mr. James John Chikago が約 1 時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。特に、今年初めから日本のメディアでも取り上げられている同国及び周辺の南部アフリカ各国での食糧不足についての説明および支援要請があった。

参加した OB/OG には 20 年以上前の派遣隊員もあり、元任国の開発状況や最近の食糧不足の実態を聞いて、認識を深めるよい機会となったとの声があった。



国情セミナーの様子

午後 3 時からは、玄関前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Chikago 大使と数原会長が献花した後、元 JICA マラウイ事務所員の水谷恭二氏より、マラウイ在任中に亡くなった 12 名の隊員の名前が読み上げられ、全員で 1 分間の黙祷を行った。



物故隊員慰霊碑の前で

その後、会場を 1 階食堂へ移し「シマを食べる会」を行った。初めにテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、数原会長が独立 38 周年への祝辞を述べるとともに、今後ともマラウイからの帰国隊員および大使館双方の努力により同国の発展が進むよう期待を述べた。

これに対し Chikago 大使は、独立記念日行事を催した当会に謝意を示すとともに、マラウイの各分野で活動する青年海外協力隊員および帰国後もマラウイのことを忘れず日本とマラウイの友好親善・理解促進のために活動している当会会員に謝意を示された。この後、チリマ参事官より、大使館職員と会場の厨房でシマを調理中の大使夫人および職員婦人の紹介が行われた。



大使夫妻、チリマ参事官夫妻と

続いて、平成 9 年度 3 次隊の草苺康子 OG のチェワ語による乾杯の音頭で会は始まり、大使・大使館職員・家族・OB/OG はシマを食しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。

参加者の中には遠くは徳島、新潟、宮城県から来た人もおり総勢約 60 名となった。

会は同期隊員や同じ時期に任国にいた人達のみならず、派遣年次の全く異なる人達とも距離・世代を越えたマラウイ派遣 OB/OG 隊員同士の交流の機会ともなった。

……………国情セミナー要旨……………

### 【大使発言】

マラウイと日本には外交関係のみならず友情の絆がある。

マラウイは、高層ビルが林立しているわけではなく、政治面、社会面、経済面などで発展しつつある。例えば今ではムズにも拠点病院ができた。ブランドタイヤとムランジェの間の道路も立派になり、以前は 2 時間かかったが今では 30 分で行ける。マンガーチではシレ川にかかる橋が建て替えられた。この橋によって兩岸の地区が一体となるだけでなく、マラウイとモザンビークの関係が強化された。衛星通信基地もできた。また、南アフリカのスーパーマーケットチェーンや銀行が進出してきている。政治的な安定や犯罪の少なさが投資促進要因となっている。マラウイはアフリカのスイス



1年中草に覆われているということは、今まで野菜などを栽培したことがなく、栽培した時に病害虫が少ないのではないかと、さらに伝統的な背景があって、園芸作物が育てられて来たのではないかと、ということ等を考えています。

文献によりますと、サブサハラ砂漠以南の熱帯アフリカ地域において、ダンボに似た環境は8,500万haに及ぶと書かれていました。南部ナイジェリアでは、主食が米であるという食文化の違いから、90%以上の季節性低湿地帯が農業利用されています。また、ジンバブエでは、プランテーションが行ってきた開発によってダンボ植生が変化し、ダンボの枯渇化を背景としてダンボ利用の法律規制がなされています。貨幣経済が進むにつれて、マラウイにおいても、ダンボの農業利用はますます進むのではないだろうかと思えます。

主観的になってしまいますが、私がなぜ各国各地域の伝統農業に興味を持つかと言いますと、「限られた環境の中で、生きるために続けられてきた営みであることは、地域環境を積極的に守るという思想がないと為し得ないものではないか」と、考えているからです。もう少しロビの農민達から知恵を学び、

地域環境に則した生き方というものを模索したい、私は進学の道を選びました。

青年海外協力隊で経験した2年間、皆様しか知らない文化や風習も多く、経験上感じてきた問題点も再度経験しないと分からないものが大半かと思えます。そういったものを表現できる場があるならば、今後、国内外問わず、農業分野に大きく役立つのではなからうかと浅はかながら考えています。(もう一度マラウイの土を踏みたいということが本音なのかも知りませんが...)こんな考え、いかがでしょうか。



本場ロビ地域の伝統農法の1つ、マウンド農法「チクサー」



これが、日本版「チクサー」です

## 《日本マラウイ協会》 平成14年3月～8月活動内容

新駐日マラウイ大使歓迎会を開催  
【3月20日】(第2面の記事参照)

第20回通常総会を開催  
【5月12日】(第2面の記事参照)

国情セミナー・シマを食べる会を開催  
【7月6日】(第2～3面の記事参照)

食糧支援募金活動を実施  
【6～8月】(第1面の記事参照)

## 日本マラウイ協会情報

### 「国際協力フェスティバル2002」出展協力者募集

毎年恒例の「国際協力フェスティバル」が来る10月5・6日(土日)に東京・日比谷公園で開かれます。日本マラウイ協会は今年もチョンベティーや民芸品の販売などを計画しています。当日のスタッフを募集していますので、お手伝いいただける方は右記の電話・FAX・E-Mailへご連絡をお願いします。

### 日本マラウイ協会設立20周年記念事業

日本マラウイ協会は来年2月26日に設立20周年を迎えます。当会ではこれを記念する事業を計画しています。現在のところ、CD-ROM写真集の発行などの案がでております。詳細が決まりましたらご案内しますので、皆様のご協力をお願いします。

### ホームページの刷新

8月中旬に当会のホームページを刷新し、内容の充実化を図りました。食糧支援募金の動きなども随時、内容の更新に努めていきます。是非、アクセスしてください。また、ご意見・ご要望をお待ちしています。

URL: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

### 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェワ語辞典 統合改訂版(2000年7月発行)  
B5版 186ページ 1部 1,500円(送料310円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版 108ページ 1部 1,200円(送料310円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版 40ページ 1部 1,000円(送料310円)

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ずE-mail、あるいは電話/FAXで「xxxx xx冊希望」と当会宛連絡してください。

### ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありま

したら、右記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

### 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJOCV広尾訓練研修センター1F研修室2)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

### 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

UFJ銀行 東恵比寿支店普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会 代表者 ト部敏男

(ニホンマラウイキョウカイ ダイヒョウシャ ウラベトシオ)

郵便振替 00190-7-13125

加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。